

分野	授業科目	単位 (時間)	進度	担当
専門分野	小児看護学援助論Ⅱ	2 (45)	2年後期	中村りか・蒲池咲子 外部講師 実務経験あり
科目目的	健康障害をもつ小児に対し、成長発達及び生活の視点からアセスメントし看護過程の展開ができる。また看護を安全に実施するための看護技術を学ぶ。			
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児の症状のメカニズムとその観察及び看護について理解できる。 2. 小児看護に必要な看護技術を習得できる。 3. 事例を通して、健康障害をもつ小児の看護を理解し、小児看護に必要な知識・技術を統合する。 			
単元名	教育内容	時間	教育方法	担当
1. 疾病・障害をもつ小児と家族の看護	<ol style="list-style-type: none"> 1) 疾病・障害が小児と家族に与える影響 2) 小児の健康問題と看護 	14	講義	蒲池
2. 小児における疾病の経過とさまざまな状況にある小児と家族への看護	<ol style="list-style-type: none"> 1) 慢性期にある小児と家族の看護 <ol style="list-style-type: none"> (1) 慢性期の特徴 (疾患/症状/検査・処置/看護) (2) 活動制限が必要な小児と家族の看護 <ol style="list-style-type: none"> ①目的、影響：急性腎炎、ネフローゼ症候群 2) 急性期にある小児と家族の看護 <ol style="list-style-type: none"> (1) 急性期の特徴 (疾患/症状/検査・処置/看護) (2) 隔離が必要な小児と家族 <ol style="list-style-type: none"> ①目的、方法、影響：麻疹、水痘症 3) 痛みのある小児と家族 <ol style="list-style-type: none"> ①表現、評価、緩和への援助 3) 周手術期にある小児と家族の看護 <ol style="list-style-type: none"> (1) 周手術期の特徴 (疾患/症状/検査・処置/看護) (2) 手術を受ける小児と家族 <ol style="list-style-type: none"> ①手術の特徴：腸重積症、肥厚性幽門狭窄症 4) 終末期にある小児と家族の看護 <ol style="list-style-type: none"> (1) 終末期の特徴 (疾患/症状/検査・処置/看護) (2) 先天的問題をもつ小児と家族 <ol style="list-style-type: none"> ①先天異常の種類と特徴、受容：先天性心疾患 		講義	
3. 外来受診時の看護とフィジカル・アセスメント	<ol style="list-style-type: none"> 1) 外来における小児と家族の看護 <ol style="list-style-type: none"> (1) 小児トリアージの実際 (2) フィジカルアセスメントに関する看護技術 <ol style="list-style-type: none"> (1) 身体計測 身長、体重、胸囲、腹囲、頭囲、大泉門 (2) バイタルサイン測定 直腸検温、呼吸測定 心拍測定、血圧測定 	2	講義	中村
4. 在宅療養を行う小児と家族の看護	<ol style="list-style-type: none"> 1) 障害のある子どもと家族の看護 <ol style="list-style-type: none"> (1) 定義、特徴、社会的支援 		講義	蒲池

単 元 名	教 育 内 容	時間	教育方法	担当
5. 小児の基本技術	1) バイタルサイン測定 体温測定、呼吸測定、心拍測定、血圧測定 2) 日常清潔ケア 清拭、寝衣交換、おむつ交換 3) 治療処置に伴うケア 持続静脈内輸液介助（小児用輸液セット使用 注射・輸液施行時の固定・抑制）、採血時の 固定、経口与薬（乳首、スポイトによる方法） 酸素療法（酸素テント使用・マスク） 吸入療法、口腔・鼻腔吸引、浣腸 4) 検査に伴うケア 採尿（採尿パックの使用方法）、 骨髄・腰椎穿刺（穿刺時の固定）	4 8	講義 演習 GW	中村 外部講師
6. 看護過程の展開	1) 小児の看護過程（ネフローゼ症候群の男児） (1) 概要説明 (2) 情報収集 (3) アセスメント（優先度の判断） (4) 日々の援助の必要性 (5) 日々の援助計画立案 (6) 対象に必要な教育支援計画と実施評価	16	GW	中村
7. 試験		1		中村
テキスト／その他の教材	系統看護学講座「小児看護学概論 小児臨床看護総論」 「小児臨床看護各論」（医学書院）			
評価方法	筆記試験 80 点（中村 30 点・蒲池 30 点・外部講師 20 点）及び課題レポート（20 点）等から評価する。			